

託送料金算定の前提となる
電力需要(供給区域需要)想定について

平成27年9月10日
北陸電力株式会社

目 次

1.	需要想定のおえ方	・ ・ ・ P 1
2.	前提となる経済見通し	・ ・ ・ P 2
3.	節電影響	・ ・ ・ P 3
4.	想定結果の概要	・ ・ ・ P 4
5.	電力システム改革に係る制度変更	・ ・ ・ P 5
6.	用途別電力量の想定	
	・ 低圧需要①	・ ・ ・ P 6
	・ 低圧需要②	・ ・ ・ P 7
	・ 高圧・特高需要	・ ・ ・ P 8
7.	最大電力の想定	・ ・ ・ P 9
8.	想定結果の詳細	・ ・ ・ P10
【参考】	節電影響について	
	・ 最大電力	・ ・ ・ P11
	・ 電力量	・ ・ ・ P12
【参考】	過去の需要想定と実績との比較	・ ・ ・ P13

1. 需要想定の方

- 平成27年度供給計画における供給区域需要想定をもとに電力システム改革における議論を踏まえ、料金原価算定期間の平成28年度から30年度における電力量 (kWh) と、夏季の1時間平均最大となる最大電力 (kW) を想定しています。

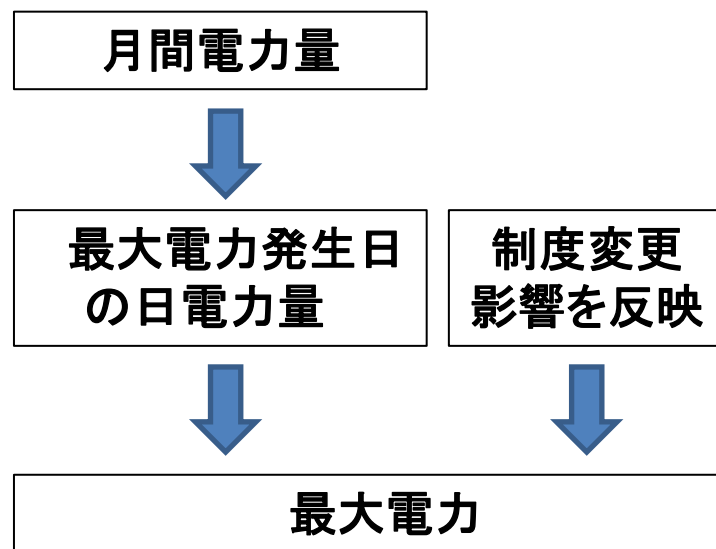
電力量の想定

- 用途別に実績傾向や経済指標などから「節電がない場合の電力量」を想定しています。
- その結果から「節電の影響」を差し引いて供給区域需要を想定しています。
- 上記で想定した電力量に、電力システム改革に係る制度変更影響を反映しています。

低圧需要	電灯	家庭用・街路灯など
	電力	小規模店舗・工場など
高圧・特高需要	業務用	オフィスビル・商業施設など
	産業用	工場など

最大電力の想定

- 左記の想定電力量をもとに、電気の使われ方を考慮した上で想定しています。
- 上記で想定した最大電力に、電力システム改革に係る制度変更影響を反映しています。



2. 前提となる経済見通し

- 用途別の電力量（kWh）想定にあたり、「電灯」の口数は北陸の人口を用いた相関により想定しています。
- 国内総生産・鉱工業生産指数は、想定結果の水準を確認するために使用しています。

主要経済指標

	H25 (実績)	H26 (推定実績)	H27 (想定)	H28 (想定)	H29 (想定)	H30 (想定)
北陸の人口 ※1 (千人)	▲0.5% 3,030	▲0.5% 3,015	▲0.6% 2,996	▲0.6% 2,978	▲0.6% 2,959	▲0.6% 2,941
【参考】国内総生産 ※2 (兆円)	2.2% 529.2	▲0.5% 526.6	1.6% 535.0	1.5% 543.0	1.2% 549.5	1.2% 556.1
【参考】鉱工業生産指数 ※2 (平成22年=100)	3.2% 98.9	▲1.0% 97.9	2.8% 100.6	2.8% 103.4	1.5% 105.0	1.5% 106.6

※1 実績や国立社会保障・人口問題研究所の推計値を踏まえて設定。

※2 計画策定時点のシンクタンクの予測や政府経済見通しなどを踏まえて設定。

注) 表内上段は対前年増加率。

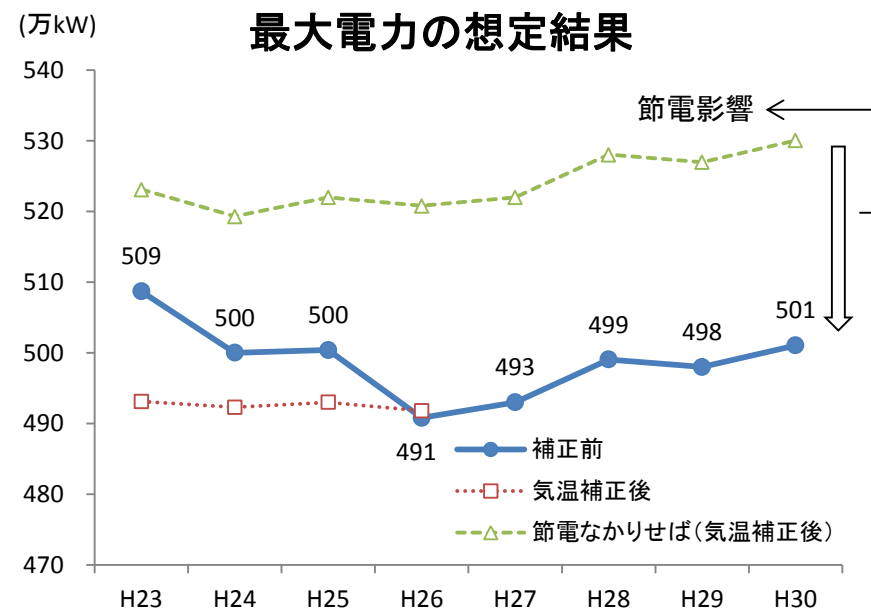
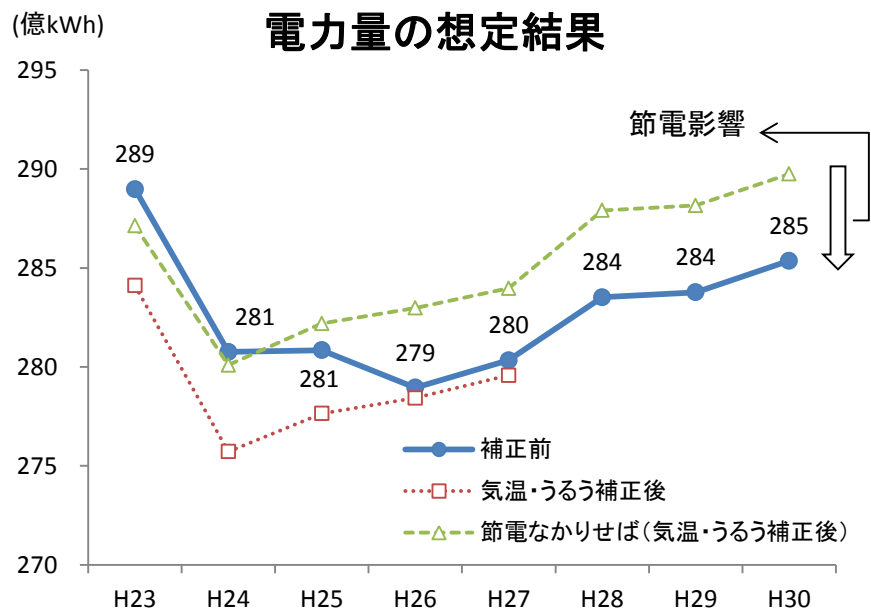
3. 節電影響

- 節電影響は、実績傾向を踏まえ、平成26年度の節電影響が平成28年度から30年度も継続するものとして想定しています。

	H23 (実績)	H24 (実績)	H25 (実績)	H26 (推定実績)	H28-H30 平均 (想定)
電力量 (億kWh)	▲3.0	▲4.4	▲4.6	▲4.4	▲4.4
電灯	▲0.9	▲2.0	▲2.2	▲2.1	▲2.1
業務用	▲2.1	▲2.4	▲2.4	▲2.3	▲2.3
最大電力 (万kW)	▲30	▲27	▲29	▲29	▲29

4. 想定結果の概要

□ 平成28年度から30年度は、節電影響は継続するものの、景気回復に伴う産業用需要の増加などから、電力量・最大電力ともに緩やかな伸びを見込んでいます。



	(億kWh)			
	H28	H29	H30	H28-H30 平均
電力量	+1.4%	+0.1%	+0.6%	+0.7%
	284	284	285	284

	(万kW)			
	H28	H29	H30	H28-H30 平均
最大電力	+1.2%	▲0.2%	+0.6%	+0.5%
	499	498	501	499

注) 建設工事用電力・事業用電力を含む。
 注) H28以降は電力システム改革に係る制度変更を含む。
 注) 表内上段は対前年増加率(うるう補正後)。
 H28-H30平均は年平均増加率。

注) 建設工事用電力・事業用電力を含む。
 注) H28以降は電力システム改革に係る制度変更を含む。
 注) 表内上段は対前年増加率。
 H28-H30平均は年平均増加率。

5. 電力システム改革に係る制度変更

- 今回の託送料金申請においては、第11回制度設計WGの整理や託送料金算定省令の改正を踏まえ、以下①～③の需要を料金算定の前提需要に反映させています。

[加算]

- ①停止中所内電力
電源補修計画等の停止時間数と停止中所内電力量の実績値をもとに想定。
- ②揚水ロス
計画における「揚水動力」から「揚水発電量」を差引くことにより想定。

[減算]

- ③建設工事用電力・事業用電力(送配電部門に関するもの)
建設工事用電力は、工事件名から送配電部門に関するものを抽出し、事業用電力は、実績にもとづき算定した送配電部門の電力量比率を事業用電力全体の計画値に乗じることにより、それぞれ想定。

【想定結果の概要】

		販売電力量(億kWh)				最大電力(万kW)				
		H28	H29	H30	H28-H30 平均	H28	H29	H30	H28-H30 平均	
供給区域需要 ^{※1}		A	+0.8%	+0.2%	+0.3%	+0.4%	+0.6%	+0.2%	+0.2%	+0.3%
			281.7	282.3	283.2	282.4	496	497	498	497
制度 変 更	停止中所内	①	2.0	1.7	2.3	2.0	4	2	4	3
	揚水ロス	②	0.1	0.0	0.1	0.1	0	0	0	0
	建設工事用電力・ 事業用電力 ^{※2}	③	0.2	0.2	0.2	0.2	1	1	1	1
料金の前提需要		A+①+② -③	+1.4%	+0.1%	+0.6%	+0.7%	+1.2%	▲0.2%	+0.6%	+0.5%
			283.5	283.8	285.4	284.2	499	498	501	499

※1 H27供給計画における供給区域需要想定。

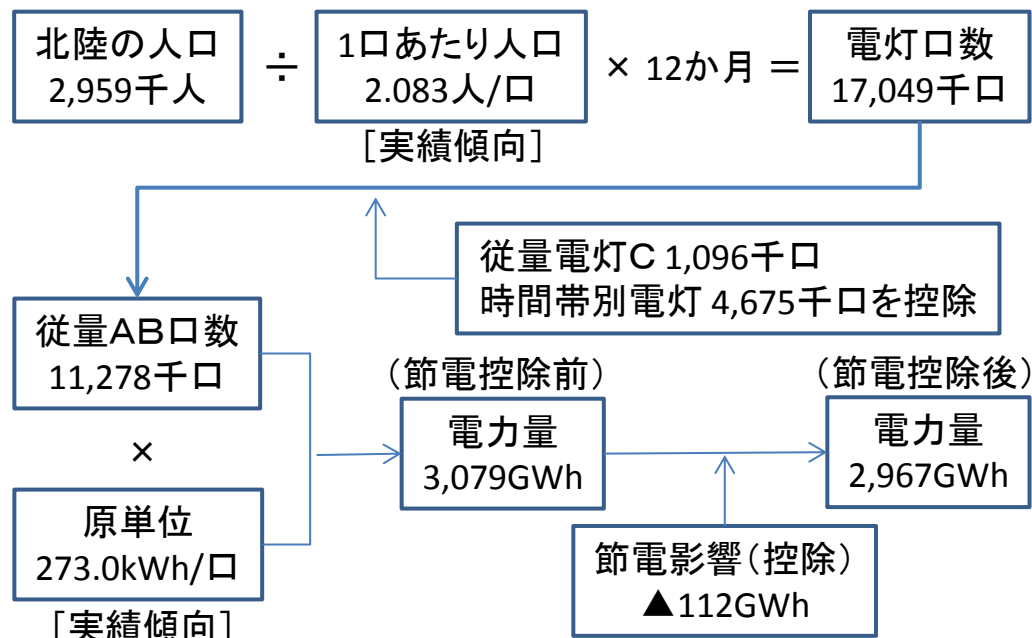
※2 送配電部門に関するもの。

注) 端数処理の関係で合計が合わない場合がある。

6-1. 用途別電力量の想定（低圧需要①）

[従量電灯AB]の想定方法

- 口数は、従量電灯AB+従量電灯C+時間帯別電灯の合計口数(以下、電灯口数)を北陸の人口と1口あたり人口(実績傾向から想定)から想定し、従量電灯Cおよび時間帯別電灯の口数を控除して想定しています。
- 原単位(1口あたりの電力量)は、実績傾向から想定しています。
- 電力量は、想定した口数と原単位を乗じて算定した電力量から、節電影響を控除して想定しています。



注) 下段の数値は、H28-H30の平均値。
注) 端数処理の関係で、計算が合わない場合がある。

[従量電灯C・時間帯別電灯]の想定方法

- 契約電力は、電灯口数に契約種別毎の口数シェアを乗じて算定した口数に、1口あたり契約電力を乗じて想定しています。(口数シェア・1口あたり契約電力は、実績傾向から想定。)
- 原単位(契約電力あたりの電力量)は、実績傾向から想定しています。
- 電力量は、想定した契約電力と原単位を乗じて算定した電力量から、節電影響を控除して想定しています。

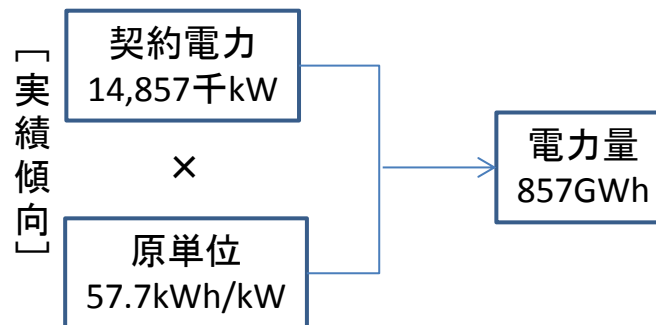
[その他電灯]の想定方法

- その他電灯(高負荷率電灯・定額電灯・公衆街路灯・臨時電灯)については、実績傾向から想定しています。

6-2. 用途別電力量の想定（低圧需要②）

[低圧電力]の想定方法

- 契約電力と原単位(契約電力あたりの電力量)をそれぞれ実績傾向から想定しています。
- 想定した契約電力と原単位を乗じて電力量を想定しています。



注) 下段の数値は、H28-H30の平均値。

[その他電力]の想定方法

- その他電力（深夜電力・臨時電力・農事用電力・融雪用電力など）については、実績傾向から想定しています。

[想定結果の概要（低圧需要）]

- 電灯は、節電影響は継続するものの、電化住宅の普及などから、平成28年度から30年度平均で0.3%の増加を見込んでいます。
- 電力は、引き続き小規模商店・工場などの減少から、平成28年度から30年度平均で3.4%の減少を見込んでいます。

	H28	H29	H30	(単位:GWh) H28-H30 平均
電灯	+0.4% 8,329	+0.3% 8,351	+0.2% 8,366	+0.3% 8,349
電力	▲3.3% 1,130	▲3.4% 1,092	▲3.6% 1,053	▲3.4% 1,092

注) 表内上段は対前年増加率(うるう補正後)。

H28-H30平均は年平均増加率。

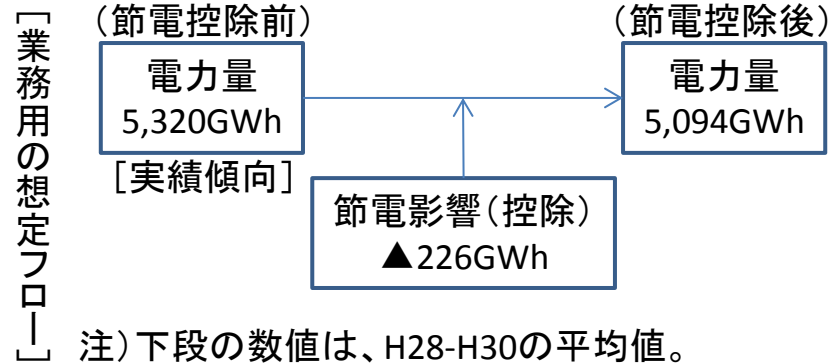
6-3. 用途別電力量の想定（高圧・特高需要）

[業務用]の想定方法

- 節電控除前の電力量を実績傾向から想定しています。
- その結果から、節電影響を控除して想定しています。

[産業用]の想定方法

- 個別のお客さま動向や実績傾向を勘案して想定しています。



[想定結果の概要（高圧・特高需要）]

- 業務用は、節電影響が継続するものの、商業施設の増加などから、平成28年度から30年度平均で0.3%の増加を見込んでいます。
- 産業用は、景気の回復基調にあわせて企業の生産活動が回復に向かうことから、平成28年度から30年度平均で0.9%の増加を見込んでいます。

	(単位: GWh)			H28-H30 平均
	H28	H29	H30	
業務用	+0.3%	+0.3%	+0.3%	+0.3%
	5,080	5,094	5,107	5,094
産業用	+1.5%	+0.4%	+0.8%	+0.9%
	13,634	13,688	13,792	13,705

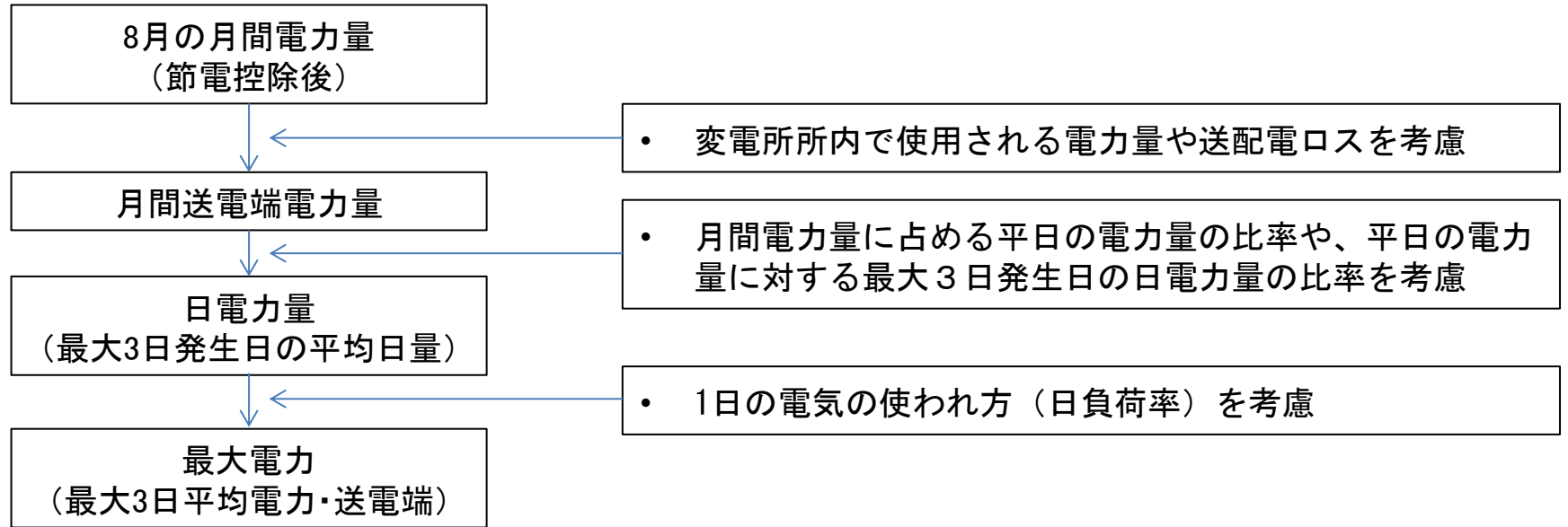
注) 表内上段は対前年増加率(うるう補正後)。

H28-H30平均は年平均増加率。

7. 最大電力の想定

[最大電力]の想定方法

- 実績傾向などから想定した月間の電力量をもとに、1日の電気の使われ方(日負荷率)を考慮して想定しています。



[想定結果の概要 (最大電力)]

- 節電影響は継続するものの電力量の増加に伴い、平成28年度から30年度平均で0.3%の増加を見込んでいます。

(単位: 万kW)

	H28	H29	H30	H28-H30 平均
最大電力	+0.6% 496	+0.2% 497	+0.2% 498	+0.3% 497

注) 表内上段は対前年増加率。H28-H30平均は年平均増加率。

8. 想定結果の詳細

(単位: 億kWh、万kW)

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H28-H30 平均
低圧需要	97	96	95	95	94	94	94
電灯	85	83	83	83	84	84	83
従量電灯AB	35	33	32	31	30	29	30
従量電灯C	11	11	11	11	11	10	10
時間帯別電灯	35	36	37	39	41	42	41
その他電灯	3	3	3	3	3	3	3
電力	13	12	12	11	11	11	11
低圧電力	10	10	9	9	9	8	9
その他電力	3	3	3	2	2	2	2
高圧・特高需要	183	183	185	189	189	191	190
供給区域需要	281	279	280	284	284	285	284
最大電力 (送電端・最大3日平均)	500	491	493	499	498	501	499

注) 建設工事用電力・事業用電力を含む。

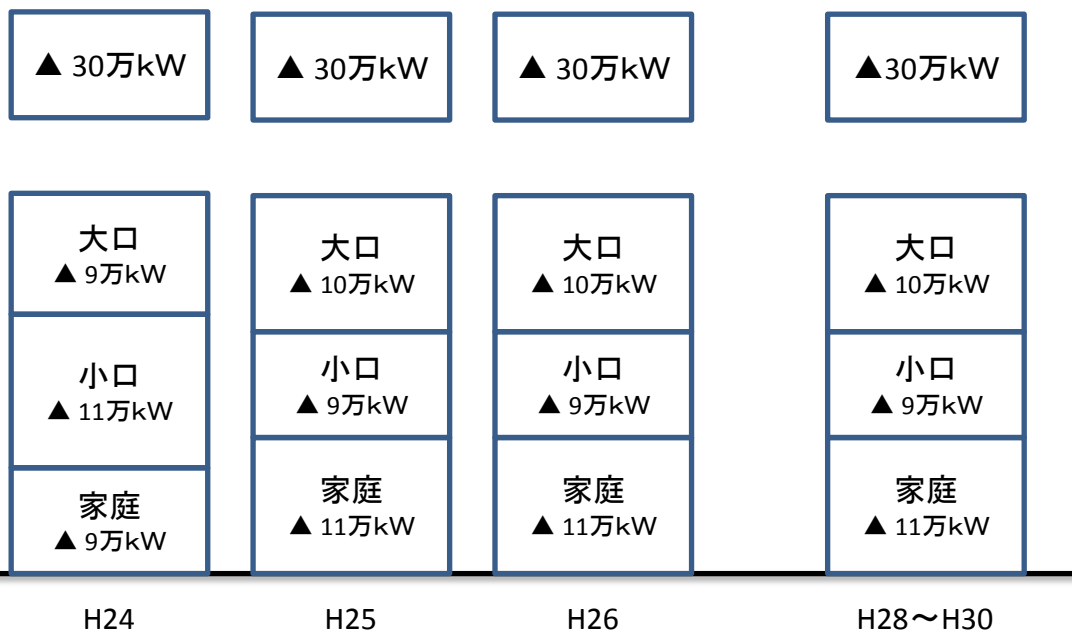
注) H28以降は電力システム改革に係る制度変更を含む。

注) 端数処理の関係で合計が合わない場合がある。

【参考】節電影響について（最大電力）

- 平成24年度から26年度は、無理のない範囲での節電のご協力をお願いした結果、夏季の節電影響は、いずれの年度も▲30万kWとなりました。
- 平成28年度から30年度についても、この節電影響が継続するものと想定し、▲30万kWを織込んでいます。

【節電影響(最大電力、発電端)】



平成24年度	夏季	冬季
節電をお願いした期間	7/2~9/28 平日の9時~20時	12/3~3/29 平日の9時~21時

平成25年度	夏季	冬季
節電をお願いした期間	7/1~9/30 平日の9時~20時	12/2~3/31 平日の9時~21時

平成26年度	夏季	冬季
節電をお願いした期間	7/1~9/30 平日の9時~20時	12/1~3/31 平日の9時~21時

注) H24は平日平均での分析結果。
注) 端数処理の関係で合計が合わない場合がある。

【参考】 節電影響について（電力量）

- 平成24年度から26年度は、無理のない範囲での節電のご協力をお願いした結果、節電影響は、いずれの年度も▲4億kWh程度となりました。
- 平成28年度から30年度についても、この節電影響が継続するものと想定し、▲4億kWhを織込んでいます。

節電影響（電力量・季節別）

（単位：億kWh）

	春 (4-6月)	夏 (7-9月)	秋 (10-11月)	冬 (12-3月)	年度計
H24	▲0.4	▲1.7	▲0.4	▲1.9	▲4.4
H25	▲0.4	▲1.8	▲0.4	▲1.9	▲4.6
H26	▲0.5	▲1.8	▲0.4	▲1.7	▲4.4
H28-H30	▲0.5	▲1.8	▲0.4	▲1.7	▲4.4

注) 端数処理の関係で合計が合わない場合がある。

【参考】過去の需要想定と実績との比較

(単位:億kWh)

		H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
電力量	計画	292	275	274	288	285	274	278
	実績	282	272	295	289	281	281	279
計画差 (上段は計画比)		96.3	98.9	107.8	100.3	98.4	102.4	100.5
		▲11	▲3	+21	+1	▲5	+7	+1
気温影響		0	▲1	+6	+4	+5	+3	+1
節電影響		-	-	-	▲3	▲1	▲1	0
その他影響		▲11	▲2	+16	0	▲8	+4	+1
低圧需要	電灯	+1	▲1	+2	▲1	0	+2	0
	電力	0	0	+1	+1	0	0	+1
高圧・特高需要		▲12	▲2	+13	0	▲8	+3	0

注) 建設工事用電力・事業用電力を含む。

注) 端数処理の関係で合計が合わない場合がある。

リーマンショックなどによる
生産減の影響

景気回復などによる
生産増の影響

一部大規模お客さまの
生産減の影響